



宮崎さん

栗田さん

西川さん

石井さん

- ・宮崎正行さん（主食用米2.6ha、飼料米7ha、麦4ha、ダイズ1.5ha）
- ・栗田捷洋さん（主食用米5ha、飼料米8ha）
- ・西川政一さん（主食用米0.7ha、黒米4ha、飼料米5ha、麦6.5ha）
- ・石井正毅さん（主食用米3.9ha、WCS5ha、麦6ha）



タカナリのモミ。インド型の超多収品種

飼料米・飼料イネで稼ぐ②

養鶏場にタカナリを出荷 あれ以上のイネ姿はないなあ

大分県国東市・西川政一さん他

飼料米が「まだ足りない」

「地元の農家が育てたお米を食べたニワトリの卵」を売って、地元の消費者を味方につける――。

これ、「大手にはマネのできない、地方の養鶏場だからできること」と鈴木養鶏場の会長、鈴木明久さんはいう。成鶏一五万羽、育成鶏七万羽。年間五〇〇〇万個の卵を出荷し、その七割は直営の直売所や近所のスーパーで売り切る。

飼料米の給与を始めたのは一〇年ほど前。最初は三tから始まり、二〇一

五年には一三五〇t（約二〇〇ha分、生産者数六五）まで増えた。それでもまだ、飼料で使うトウモロコシの三五%ほど。当面の目標としては五〇%（二〇〇〇t、約三〇〇ha分）の飼料米をエサにしたい。「まだ足りない」状況だという。

タンパク含有量が 高いほどよい

飼料米の場合、米のタンパク含有量を気にしなくてもいい。食用米のモミには七%前後のタンパク質が含まれるが、チッソをたっぷり施用すれば一

〜二%まで上がるという。

一方、ニワトリのエサはタンパク質が一七%になるよう配合する。だから、飼料米のタンパク値が高ければ、その分、エサとして与える魚粉の量を減らせるそうだ。「チッソ肥料をしっかりふって、おおいに増収してください！」というのが実需者側の要望なのだ。

そんなこともあり、大分県東部振興局では、鈴木養鶏場に出荷する多収農家のベスト五を毎年表彰している。そこでまず、ベスト五の常連のうち、面積の大きい地域の担い手農家を訪れてみた。

WCSよりやり甲斐がある

国東市の海岸端、深田集落にある西川政一さんのお宅。お会いしたのは、一〇〜二〇町規模の稲作農家、四名。今や経営面積の半分程度は飼料米を作付けしている方々だ。

――飼料米ベスト五の常連だそうです
すね。

西川政一さん（六三歳） 飼料米は五、六年つくつとるが、二〇一四年の作は我々が三〜五位に入ったよ。私がモミで七二〇kg、宮崎さんと栗田さんが六八〇kg。一五年作も同じくらいとれたけど、ベスト五には入らなかつた。全体にレベルが上がつとるのかね。

石井正毅さん（七〇歳） 私は去年まで飼料米じゃなしにWCSを五haつくつとったけど、今年は全部飼料米に替える。WCSは補助金が反当八万円ですよ。そこに畜産農家に払う刈り賃が一五五〇〇円とられる。手取りは六万五〇〇〇円。耕畜連携で一萬三〇〇〇円つくけど、これは堆肥代で相殺される。草を食わせるわけじゃから、ちよつとくらいヒエがあつてもいい。がんばつてつくる甲斐がなくてね。その点、飼料米なら増収すれば手取りが増えるから、やる気になれる。



鈴木明久さん

鶏糞利用で 買い取り価格アップ

— 品種や栽培法を教えてください。
栗田捷洋さん（七三歳） 最初はホシアオバを使ってたな。モミが大きいけど、背が高いからチッソが多いとかえって（倒れて）しまう。それで一昨年からは、鈴木養鶏場さんがタカナリの種子を分けてくれるようになった。
宮崎正行さん（六三歳） 開張型で、姿はあれ以上のものはないな。かえらん（倒れない）から安心して作業できる。刈るときにすごいホコリが舞うのも特徴じゃな。ワラがもろいんだよ。刈り株からヒコバエが全然出なくて、腐りも早い。
西川 鶏糞を反当五〇〇kgまくんじやが、料金が五〇〇〇円で運賃が一五〇〇円かかる。おかしなことに、鶏糞をまいても耕畜連携の助成は出らんのだよ。鶏糞をふれば飼料米の買い取り価格が早い。



タカナリのイネ姿（編集部で育てたバケツイネ）。短穂・穂重型で穂が長い。止葉を含めて葉身が直立し、豊光態勢は抜群

欠株が出てそのまんま

格が一kg二五円で、ふらんと一〇〇円というシステムになつとる。鶏糞をふって七〇〇kgとれば一万七五〇〇円で買ってくれて、ふらんと七〇〇〇円。
栗田 西川さんと宮崎さんはふつとるけど、わしは面積が多いし年じやから、去年はふつとらんよ。鈴木養鶏場さんが無料にしてくれたら、ふるんじやけどなあ（笑）。
西川 田植は坪四六株で三〜五本植えかな。密植しても収量は上がらんね。分けつが二〇本とれて、全部に美しい穂が出るようなつくり方をしたい。箱苗はちよつと厚播きで一八〇gくらいにして、箱数を一三箱くらいに抑える。昔に比べたら、相当薄くなつ

とると思うよ。

石井 最近では四隅もしいわ（面倒くさい）。奥さんを使わん農業じゃな（笑）。
 — 施肥はどうしてますか？

西川 私らは面積も多いから、ある程度手間と経費を落としてつくつとる。基本は主食用米に少し多めのチッソを与えるやり方かな。私の場合は、チッソ成分で元肥に五・五kg（オール一四）、穂肥四kg（硫酸）、様子を見て実肥を二kg（硫酸）くらい。タンパク値が上がっても構わんから、出穂後にも少しチッソを効かせるようなイメージじゃな。

クズ米が出ても収量のうち

宮崎 飼料米の場合、防除にも気を使わんでいい。一昨年はちよつとウンカにやられたけど、イモチには強い。モミで出荷するから、クズ米が出ても収量のうちになる。ただし、イナコウジ



西川さんの耕作する深田集落の田んぼ。乾きやすいよう、ディスクロータリで天地返したが、今年は雨が多く水が溜まってしまっている

やゴミは取り除かんといけんから、ミックリーナー（粗選機）を買った。二〇万円くらいかな。フレコン出荷で集荷も無料やけん、ラクだよ。家の前まで取りに来てくれるが、道が狭いときは近くの中継地まで持っていく。その場で重さを測って検査もする。
西川 目標はモミで七〇〇kgくらい。玄米で五六〇kgじゃな。国東市の基準

反収が五〇〇kg（玄米）やけん、プラス六〇kg。1kg増収すれば補助金は一六七円プラスされるから、基準反収の八万円に一万円くらいプラスされる。満額の一〇万五〇〇円とはいかんけども、それくらいあれば、多収性品種と飼料米代を加えて一二万円弱。二毛作の助成も合わせれば一三万五〇〇円になるけんね。

この集落は深田の名のとおり、湿田ばかりでね。他所の集落から耕作しに来る人もおつたが、機械が動かず一年か二年でみんな出てってしまう。本当につくりづらい土地じゃけど、私らは出ていくわけにはいかん。補助金がこの先どうなるかわからんが、この農地を守りながら経営するとなると、今は飼料米で稼ぐという選択になるなあ。

*七月号では、モミ収量で九〇〇kgを超える平田照寿郎さん（耕作面積二・七ha）のお宅に訪問します。

編